



ルーテル学院だより

神学校だより

No.159

No.86

合併号

2025. 6. 15

| 発行 | ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校
〒181-0015 東京都三鷹市大沢 3-10-20
TEL: 0422-31-4611 FAX: 0422-33-6405
| 発行人 | 石居 基夫
<https://www.luther.ac.jp/>

Feature 特集

社会で輝く卒業生

ルーテル学院大学卒 北里大学大学院修了
染谷 しお梨



Profile 染谷 しお梨

2023年 ルーテル学院大学総合人間学部卒業
2025年 北里大学大学院・医療系研究科医療心理学専攻修了

Q. 心理学に興味を持ったきっかけ・ルーテルを志望したきっかけを教えてください

幼い頃から、子どもに携わる仕事がしたいという思いがあり、心理職を志しま

した。ルーテル学院大学を志望した理由としては、学生一人ひとりに向き合うことのできる少人数教育があったからです。

Q. ルーテルでの学びで印象に残っていることは何ですか

1つ目は、心理職を目指す同級生とのつながりです。大学2年生へ進級するときに新型コロナウイルスが感染拡大したため、サークルは休止し、遠隔の講義が学生生活の大半を占めるようになりました。先の見えない不安や孤独感を感じつつも、講義や実習を乗り越えられたのは、同級生とのつながりがあったからだと思っています。

2つ目は、3年次後期から行われる研究室での活動です。卒業論文を執筆すべく、研究計画を立て、データを収集し、解析を行い考察することは、どの過程も初めての経験で興味深くもありましたが、とても大変でした。しかし、ある領域の中でまだ明らかになっていないことを見つけ、新たな所見を見出す研究過程は、物事を捉える自分自身の論理的思考を鍛える良い経験になったように今実感

しています。

Q. 大学院進学の動機や経緯について教えてください

心理職を目指すために、大学院へ進学することは視野にありましたが、ルーテル学院大学で、田副真美教授の研究室で学んだことが大変大きかったように思います。先生との出会いから医療心理学という学問を知ることができ、身体疾患を持つ患者様の心理的過程に関する研究がしたいと思い、医療心理学を専攻できる大学院へ進学しました。

Q. 今後のビジョンを教えてください

少子高齢化が進み、ますますメンタルケアの需要が高まりつつあると感じています。一方で、日本社会において心理職の位置付けは曖昧さを含んでいるとも感じています。より多くの方々に心理職を身近に感じていただけるように、現場で働く一人の心理職として、専門性を磨いていきたいと考えています。

2024年度 卒業式報告

2025年3月7日にルーテル学院大学・大学院・日本ルーテル神学校の卒業式が執り行われました。総合人間学部75名、総合人間学研究科臨床心理学専攻14名、日本ルーテル神学校1名、合計90名の学生に卒業証書及び学位が授与されました。

石居学長から「わたしがあなたと共にいて」と題して説教がなされ、卒業生の門出をお祝いしました。

国家試験の結果発表

- ・第37回（2024年度）社会福祉士国家試験の現役合格率80%
- ・第8回（2024年度）公認心理師国家試験の新卒者合格率72.7%

受験対策のサポートなどを活かしつつ、一人ひとりの努力が実を結びました。

新任教員の紹介

2025年4月より以下の教員が着任しました。よろしくお願いいたします。



教員紹介

ルーテル学院大学	日本ルーテル神学校
岸 千代 助教	坂本千歳 チャプレン
青木絢子 助教	李 明生 准教授
鈴木喜子 助教	江本真理 助教

ホームカミングデーのお知らせ

例年6月に開催していたホームカミングデーは、11月3日（祝）の開催を計画しています。

詳細は9月ごろにホームページ等でご案内する予定です。

2025年度の発行について

日頃より、ルーテル学院だより・神学校だよりをご高覧いただき、誠にありがとうございます。これまで年4回ずつ発行してまいりましたが、2025年度より、後援会ニュースとともに合併号を6月と12月の年2回発行するカタチに変更させていただくことになりましたので、お知らせいたします。

何卒、ご理解の程よろしくお願いいたします。

新年度を迎えて

日本ルーテル神学校 校長 宮本 新



4月3日、神学校入学始業聖餐礼拝が行われました。1名の入学者を迎え4名の神学生たちとのささやかな礼拝のひと時でしたが、主なる神様に心を向けて祈り讃美することから一年の学びを始めています。ルーテル学院大学が学生募集を停止してから一年が経過し、また神学教師も大きく入れ替わる新学期でもあり、自分たちの足元を見つめ、大変さの中にもある励ましの御業を思うときにもなりました。この入学始

業のために大阪から大柴譲治理事長はじめ日本ルーテル教団と日本福音ルーテル教会の神学教育委員会、後援会、そして神学校教師らが参集し祈りをあわせたこともまた恵み深いことでした。

あるとき学内の委員会で、アメリカのハーバード大学の歴史に学ぶ機会がありました。会衆派の神学校として始まり、記録によると最初の100年の卒業生はおよそ100名。つまり単純計算すれば年ごとに1名の卒業生を送り出す教育活動を100年つづけたこととなります。大変驚きました。またその歴史を重ねるにあたり人々の苦勞と志の高さに思いを寄せました。日本福音ルーテル教会が佐賀から九州各地で始まったときも、また1909年に熊本のスタイワルト宣教師宅でうぶ声をあげた本学においても、このようなささやかな礼拝がその初めにありました。その意味で私たちは今一度歴史に立ち返

る機会を得ているのかもしれません。

本学は教職養成の使命と合せて「研究」と「研修」を活動の柱としてきました。ルター研究所やデール・パストラル・センター、また教職神学セミナーや講壇奉仕といった諸活動がそれらを担ってきました。伝えられた福音を深く理解しようとする、また宣教とその活動にある喜びや困難、そして課題をも分かち合い、学び合うことなくして神学教育も成り立たないと考えてきたからです。たとえ限られた諸条件の中にあってもここにある務めと役割とに引き続いて力を尽くしたいと考えています。

建学の精神にある聖句は、「汝（なんぢ）らキリスト・イエスの心を心とせよ」（ピリピ書2章5節文語訳）。それは建学116年の足跡を振り返る視点となり、これからの進み方を示す道しるべとなることでしょう。引き続いてのご加禱とお支えをお願いいたします。

Feature 特集

チャペル探訪

— その2 (全3回) —

学長 石居 基夫

チャペルは、当初は周りに水路をめぐるし、建物全体が水に覆われるように設計されました。実際に水を回すことはありませんでしたが、外壁には水の流れ落ちる自然風景が配置され、窓には青色系のガラス片を散りばめて、神の恵みといのちを表す水がほとばしるようにデザインされました。現在では旧約と新約の聖書からイメージされた水のステンドグラスがチャペル正面の窓に入っています。

室内は天井が非常に高く、正面東向きに聖壇を配置し、入り口右側に洗礼室、正面右側に懺悔室にあたる空間が円筒形に取られています。全体は自然な非対称になっていて、正面左側には低く切られた窓が中庭の自然を見せています。茶室を思わせるような雰囲気、自然も人も共に神の礼拝にあずかるものであることを表しています。



チャペルのステンドグラス 山崎種之氏作品



旧窓ガラスのデザイン